

みらいのジブンの設計図

スタート編



●プロローグ 未来の可能性 1

- 未来の可能性をチェック◆1
- 未来の可能性のタイプ◆2
- 高校時代にやっておけばよかった、やっておいてよかったこと◆3
- 未来の可能性について考えよう◆4
- 挫折や失敗を乗り越える可能性◆5
- 自分ことを応援してもらえる可能性◆7

●テーマ1 学校に通うということ 9

- 学校充実度診断◆9
- 学校に行きたい理由◆10
- 学校に行きたくない理由◆11
- 行きたくない理由にひそむ学び◆12
- 勉強以外で身につけている力◆13
- 高校を辞めるかどうか迷った人にとっての学校◆14
- 高校を「3回」辞めた人にとっての学校◆15
- 人それぞれの学校で学んだこと◆16

●テーマ2 働くということ 17

- 今の自分が思う働くことで得たいもの◆17
- 高校生・大学生が思う働くことで得たいもの◆18
- なぜ働くのか①——詩人という働き方◆19
- なぜ働くのか②——子どもをもつ女性としての働き方◆20
- なぜ働くのか③——家族・社会・自分のためという働き方◆22
- 聞いてみよう「働くことで得ているもの」◆24

●テーマ3 自分はどんな人? 25

- この人は何をしたいそう?◆25
- この人はこんなことをしています①◆26
- この人はこんなことをしています②◆27
- 自分はどんな性格?◆28
- 自分はどんなことに興味がありそう?◆29
- 自分はどんな能力が高そう?◆30
- 自分自身の見つけ方◆31
- 意志と努力で適性は広がる◆32

●テーマ4 高校での学びは将来に役立つのか 33

- もしも学ぶ教科を削ることになったら◆33
- 教科が役立つシチュエーション◆34
- 働いている人が役立つと考えている教科◆36
- 教科で学んだことは社会でどのように役立つのか◆38
- 暮らしのなかに溶け込んでいる教科を探そう◆39
- 暮らしのなかに溶け込んでいる教科——答えの一例◆40

●テーマ5 高校を卒業したら 41

- 高校卒業後の道◆41
- それぞれの進路を比べてみよう◆42
- 学ぶ意味の発見◆43
- 高校を卒業したら入れる学校——進学あれこれ◆44
- 進学にかかる費用を考えよう◆46
- 社会に出てからの働き方——就職あれこれ◆47
- 未来を自由にイメージする◆48

●エピローグ 「みらいのジブン」に向かってスタート 49

- テーマ1「学校に通うということ」の振り返り◆49
- テーマ2「働くということ」の振り返り◆50
- テーマ3「自分はどんな人?」の振り返り◆51
- テーマ4「高校での学びは将来に役立つのか」の振り返り◆52
- テーマ5「高校を卒業したら」の振り返り◆53
- 今の気持ちを確かめよう◆54

高校を辞めるかどうか迷った人にとっての学校

高校生や大学生を対象に「音楽、起業、社会貢献」をキーワードとした教育プログラムを展開するNPOの代表を務める松浦さん。自身にとっての「学校」について語っていただいた。

株式会社フィールビート／NPO法人プラストビート 代表
まつうらたかまさ
松浦貴昌さん



▶暗黒時代からの脱出

幼い頃から興味があることには、熱中するタイプでした。興味のおもむくままに動き回るので、迷子になってしまいます。心配した親は、服の裏に名前と住所をぬいつけていたほどでした。

そんな子ども時代を過ごしましたが、**中学生の頃は暗黒時代**となりました。最初のいじめは中学1年のときです。3年生から、「生意気だ」という理由で呼び出されました。2年になると同級生からもいじめられ、ほぼ不登校となりました。**「行ってきます」と家を出ていきましたが、学校には行かず近所をぶらついていました。**

おかげで成績はガタ落ちしました。また、2年のときに受けたいじめは、「自分が壊れていく」という危機感が自分にあり、担任に手紙で告白したのですが、逆にいじめが激しくなっていました。

「いっそのこと死んでしまいたい」と思うほどになってしまったのですが、それを**救ってくれたのは母親でした。**いじめのことを母親に打ち明けたら、母親は外に出て行ったんです。数時間後によく戻ってきて、「大丈夫だから、明日から学校へ行け」と言われました。翌日登校したら、いじめっ子がみんな謝ってきて、**いじめはびたりとやみました。**

中3の春の三者面談は強烈でした。「この成績では入れる高校がない」と担任から告げられたのです。そのとき、「住み込みで調理人として働けるところがあるから、大丈夫」と母親に言われました。

「高校こそはバラ色の生活にしたい」と思っていただけに、すごく焦りました。**勉強は小学生レベルからの学び直しでした。**夏期講習はマンツーマンで教えてもらいましたが、その費用は新聞配達のアルバイトでためた貯金から捻出しました。そして受験時には学内で上位50人までに入り、公立高校への進学を果たしました。

▶経験に勝るものはない

しかし、高校に入ると、ゲームとマンガ^{さんま}の日々となってしまいました。**高校に入ることが最終目標だったので、燃え尽きてしまったのです。**

そんななか、情熱を傾けられるものとしてようやく見つけたのが、ゲーム仲間と誘われたバンド活動でした。自分たちで音をつくっていくという、**これまでにない楽しさがありました。**ライブを企画したり、自動二輪の免許を取ってバンド仲間と出かけたりして、バンド活動にとにかく熱中しました。

そして、おぼろげに「プロになる」ことを夢に描くようにな

りました。そうすると、学校に行くのが余計に苦痛になってしまいました。高2の終わり、「高校を辞める」と担任の教師と親に宣言。何度か話し合いをして、ようやく了承を得ることができました。ところが、意外なところから反応がありました。バンドのボーカル担当でした。

「学校へ行ける環境があるのに、なぜ自分から辞めるんだ」と激怒されました。彼は家庭の事情で高1のときにやむなく中退し、印刷工として働いていたのです。

ふだん和気あいあいとしている仲間から言われた、**「社会に出て働くことは大変なんだ」という言葉の重みを感じ取り、中退は踏みとどまることにしました。**

卒業後は上京し、セミプロとして数年活動しましたが、親の事業の失敗をきっかけにバンド活動から身を引くことになりました。自分は26歳でしたが、当時は妹二人がまだ高校生でした。**自分は好きなことをやらせてもらいましたが、何も親に返せていないなという思いでした。**

しかし、音楽以外には自分に何も無い。高卒で学歴や実務経験がないから働き口もない。アルバイトをしながら、ビジネススクールで勉強することにしました。なんとかなるという根柢のない確信がありました。ビジネススクールの修了後、マーケティング会社を設立することになりました。実はバンド活動はビジネスそのもので、マーケティングの実務経験を自分のなかで積んできていたんです。

▶好きなことをやり続ける

現在は、マーケティング会社の代表であると同時に、2009年に立ち上げたNPOの代表も務めています。プラストビートというNPOで、高校生や大学生などの若者に音楽イベントの企画から運営までを任せる教育プログラムを行っています。プラストビートという活動は、世界中で広がっています。

また、現在は大学の通信制で学ぶ学生でもあります。教育学部で、小学校と中高の社会科担当の教諭の免許を取得することができる教職課程です。

これからも、自分の責任において、好きなことをやり続けていくつもりです。

▶高校生のみなさんへ

いちばん大事なのは、「やりたい」という自分の気持ち。今、やりたいことがなかったり、学校の勉強に興味ももてなかったりしても、それで人生が決まってしまうわけではない。**やりたいことが見つかったときに、本気でやればいい!**

『みらいのジブンの設計図 〈スタート編〉』に取り組んでみてどうでしたか。
最後に、10年後の「みらいのジブン」を応援するメッセージを書いてみましょう!

The writing area is framed by a border of colorful squares in shades of red, blue, yellow, and purple. Inside the border are ten horizontal lines for writing.

みらいのジブンの設計図 〈スタート編〉

定価 680 円 (税込)



株式会社 実務教育出版 教材編集部
発行者 池澤 徹也
発行所 株式会社 実務教育出版

編集協力 木南 繪里・三井 綾子・松井 大助・NPO 法人プラストビート
表紙デザイン 芦谷 翼 (スズキデザイン事務所)
本文イラスト 高橋 なおみ
本文デザイン・DTP 株式会社 秀巧堂クリエイト
印刷・製本 株式会社 日本制作センター



©JITSUMUKYOIKU-SHUPPAN 2015

Printed in Japan

★乱丁・落丁本はお取り替えます★
★本書の無断転載および無断複製 (コピー) を禁じます★

みらいのジブンの設計図

ジャンプ編

